

平成13年11月4日

歴史散策
特集号

市報

にいがた



市章



港のしるしと中央の五をもつて、安政5年通商条約により指定された五港を意味し、これに雪環を頂かせて五港のひとつ新潟をあらわす

発行日 毎週日曜日 発行 新潟市 〒951 8550 編集 総務部広報課
学校町通1 602 1 印刷 第一印刷所

みなとにいがた

歩いてふれる今と昔

夕暮れ迫る信濃川の川面を忙しげに船が行き交う。みなとまち新潟の原風景です。

新潟は古くからみなとまちとして発展してきました。「蒲原津」はおよそ千年以上も前にすでに、重要な国の港として機能していました。その遺跡は発見されていませんが、信濃川河口部にあったと推定されています。

明暦元年（1655）には、浜手から現在の西堀と上大川前通の間に町を移し、縦横に堀をめぐらせ、まちなみを整備しました。現在の市中心部の骨格は、すでに江戸時代初めにつくられていたことになりました。

時の変遷は、川の形状を変え、堀を道路に変えるなどまちを変貌させてきました。しかし、「西堀通」や「船蔵小路」など、町や通りの名前はその成り立ちを今に伝えます。また、ふと目を留めた足元の石碑にも、物語が込められています。まちのそこかしこに、歴史や文化が息づいていることがわかります。

この特集号では、新潟の歴史や文化にふれる散策路をいくつか提案しています。

市内のそれぞれの地域は、長い歴史と多様な文化を持っていきます。ここで紹介できなかった興味深い散策コースもたくさんあります。皆さんも、地域の歴史や文化にふれてみませんか。

市では今、郷土歴史博物館を建設中です。

新潟の歴史は、みなとまち発展の歴史であると同時に、水と闘い、共存してきた人々の歴史でもあります。

この博物館は、郷土の歴史を理解し、先人の英知と情熱に思いを馳せ、郷土への誇りと愛着を深めるための施設です。私たちは歴史に学びながら、よりすばらしい新潟のまちづくりを行っていききたいと思っています。